



<目 次>

会津会々報

第126号・令和2(2020)年7月発行

ゆかりの地岡崎市を訪ねて

会津松平家と徳川宗家の縁を考える

喜多方と私

敵の慰霊碑建立

白虎隊と只見

白虎隊の記念碑設置

本の紹介

森川

敬寿／飯沼

一元

目黒

信

水島

勝寿

内山

由美子

宮森

泰弘

祝！会津若松市市制一二〇周年

記事

ギャラリーあいづかい

三木

トク子

会員短信欄

郭公抄

ご報告

会務報告

会 則

表紙絵 青砥昭修

事務局より

編集後記

広告索引

役員名簿

表紙の題字 柳澤秀夫／表紙絵 青砥昭修／カット 宮河悦子・佐瀬 勉

会津会々報



第126号

白虎隊の記念碑設置

森川 敬寿／飯沼 一元

はじめに

「白虎隊の会」とは平成二十二年四月一日に会長山本英市氏（西郷頼母実弟の子孫）、副会長木下健氏（山川健次郎子孫）、事務局長飯沼二元（飯沼貞吉孫）などにより発足した会で、現在東京、会津、京都、下関、長崎等に支部があり、会員数は百二十四名、今年で十年目を迎える。森川敬寿（森川金太夫勝顕子孫）は平成三十年から会津支部長を務めている。

本会の目的は「白虎隊の『義』」を後世に伝えることです。活動の中心は白虎隊ゆかりの記念碑を設置し、史跡を通して白虎隊の理解が深まることを期待している。これまでに全国に十三基の記念碑を設置しましたが、本稿では会

津地方に設置した記念碑について、年代を下って順に紹介する。なお、飯沼貞吉は明治四年に貞雄と改名したが、本稿では貞吉と統一して記す。

一 「会津藩塩川本陣近江屋跡 飯沼貞吉ゆかりの地」 記念碑

年号が令和に変わった昨年九月二十三日「白虎隊の会」により喜多方市塩川町東邦銀行塩川支店の入り口脇に「白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地記念碑」が建てられた。（図1）この場所は幕末に「近江屋」という屋号で醸造兼宿屋が営まれていた所で、飯盛山で自刃後救出された貞吉は、ここで塩川村の漢方医三本住庵の治療を受けた。

当時の塩川村は若松から米沢に至る米沢街道の要衝の地で、近江屋は会津藩の本陣になっていた。この日の夜、米沢へ向かう長岡藩主牧野忠訓一行が宿泊し、随行の軍医阿部宗達と吉見雲台に西洋医師の治療を受け一命を取り止めた。

この間のいきさつは、平石弁蔵が『会津戊辰戦争』に詳述しているので、一部を以下に抜粋する。

宿に着き、奥の下座敷、便所に通ずる廊下の一間に入れたが、気が緩んだと見え又々人事不省になった。宿屋でも心配して町医者三本住庵を呼んできて、傷口を縫い膏薬を付けてくれたのが、その翌日二十四日の午前十時頃であった。然るに夕刻になると傷口がまた非常に痛み出した。丁度その時今の九時頃になると、武装した人が私の部屋に突然入ってきて、印出の婆さんと話をし立ち去った。それより十分間ほど経つとまた来て、黒皮製の箱より外科用の道具を取り出し、私の傷口を縫った糸を残らず抜き取り、水にて洗いそのあとに白き粉薬を水にて溶き、それに綿散糸（ガーゼ）を浸し、これを丸めて傷口に詰め込み、その上を包帯した後、粉薬、ガーゼ、包帯等を十分に与え、今後の手当て法を教えてくれた。



図1 東邦銀行塩川支店敷地に設置された「白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地」記念碑と説明板



図2 白虎隊士飯沼貞吉ゆかりの地記念碑除幕の記念写真
(令和元年9月23日)

また、白虎隊事蹟には、軍医曰く、「この傷は気管を破りたれども動脈を避けたり、治療の方法に依りては年若き人なるにより、或いは全癒す可し」と書かれている。

当場所の道路向かいには三本住庵が眠る浄土宗阿弥陀寺が有り、今も貞吉を見守っているようです。

副大臣菅家一郎様、衆議院議員小熊慎司様、遠藤忠一喜多方市長、齋藤勘一郎喜多方市議会議長、大場健哉喜多方市教育長、安藤利之東邦銀行執行役員、永瀬芳幸東邦銀行塩川支店長、飯沼一元白虎隊の会事務局長、白虎隊の会会員の方々、地元の方々など三十名を超える大勢の方々が参列されました。(図2)

二 自刃白虎隊士生家案内図



図3 自刃白虎隊士生家案内図



図4 自刃白虎隊士生家案内地図

平成二十九年九月には、市内大手町の鶴ヶ城北出丸入り口近くの西郷邸跡向いに「自刃白虎隊士生家案内図」を設置した。(図3・4)

この案内図は慶応年間当時の若松城下の復元図の上に現在の道路をプリントしたものに、飯盛山に眠る二十名の白虎隊士生家を書き込んだもの。百五十年前、鶴ヶ城の周りには会津藩士の屋敷が立ち並び、武士が生活していた。現在の会津若松市には勿論その痕跡はない。毎年多

くの県内外や外国からの観光客が会津を訪れるが、武士が住んでいた様子を知ることはいかなる。

そこで、「白虎隊の会」ではせめて飯盛山で自刃した白虎隊士十九名と唯一の生存者飯沼貞吉の生家跡を地図にして、観光客の目につく処に建てることにした。

この案内図を見れば、江戸時代の武士の世界が広がって、腰に刀を差した侍達が行き交っていた光景が想像できよう。また、観光客や市民の方が町中に点在する白虎隊士の生家跡を巡ることで、当時の思いに浸るのも楽しいと思われる。当該設置場所は景観条例の該当地にあたり、許可申請が多岐に亘り苦労の連続。一時は断念もやむなしと覚悟したが、地元関係者のご協力により何とか許可された。

尚、九月十六日の除幕式には、会津若松観光ビューロー池田哲哉専務理事、目黒章三郎会津若松市議会議長、(公財)会津弔霊義会様他多数のご参列を頂いた。

三 白虎隊士生家跡記念碑

前記の案内図には設置済みの白虎隊生家跡碑が七箇所記載されている。

京都には幕末志士ゆかりの地に記念碑などが設置されているが、会津若松市にはこのような記念碑は皆無。鶴ヶ城北出丸近くに、西郷邸跡と内藤邸跡があるが、白虎隊士生

家跡はない。史跡や説明板があれば、歴史の街の訪問客にとってはおもてなしの一助になると考え、白虎隊の会では自刃白虎隊士の生家跡に記念碑と説明板を三年がかりで七基設置した。

これは福島県の地域創生総合支援事業(サポート事業)として助成金を得て実施したもの。この助成金は箱ものよりもソフトを重視しているため、白虎隊出陣劇の奉納や白虎隊バスツアーを併せて企画実施した。

会津戊辰戦争において、召集を受けた白虎隊士が出陣し、飯盛山で自刃するまで僅か一日の出来事でした。白虎隊士はどこでどのように召集されたのか、どんな気持ちで出陣したのか、何処でどう戦ったのか、なぜ自刃したのか? これらを、生家跡記念碑の設置・除幕と共に、参加者に「白虎隊の一日」として体験していただくのが狙いでした。



図5 白虎隊士篠田儀三郎生家跡除幕記念写真

飯沼貞吉と篠田儀三郎の生家跡碑を設置した。

貞吉は唯一生残って白虎隊の真実を後世に伝えた人物、儀三郎は日向内記に代わって隊長代行を務めた人物。この二人は本事業の皮切にはふさわしいと言えよう。しかし、記念碑を建てるためには、地権者の協力が必須。幸い、(有)きくや生花店様と秋山ユアビス建設(株)様に快諾を頂き、実現できた。石材は松平家墓碑には必須の磐梯石を塩川の古川石材店に特別に調達していただいた。また、白虎隊士の横顔を紹介する説明板を併せて設置した。(図5)



図6 劇団び〜ひゃららによる白虎隊出陣劇

臨場感あふれる白虎隊出陣劇を演じて頂き、この場を大いに盛り上げて頂いた。演技者の表情が真に迫っており、百五十年前の世界に居る様に錯覚してしまいました。(図6)

なお、この日は福島テレビも取材に来ており、夕方のニュース番組で放映され

翌日の新聞に大きく掲載された。若松市内で会津藩士の碑が建つのは初めての紹介があった。

平成二十八年九月には、井深茂太郎と津川喜代美の生家跡碑と説明板を設置し、劇団の路上劇とバスツアーを実施した。井深茂太郎生家跡は現東邦銀行東邦寮の敷地、津川喜代美生家(養家)跡は現福島県立若松商業高等学校敷地を提供していただいた。(図7)

平成二十九年九月には西川勝太郎、安達藤三郎、石山虎之助の各生家跡に設置した。西川勝太郎は会津若松市立第二中学校敷地内、安達藤三郎は竹田綜合病院敷地内、石山



図7 白虎隊士井深茂太郎の生家跡碑と説明板

虎之助は福島県立葵高等学校敷地内に設置した。敷地提供に深謝。

これまでに設置した白虎隊士生家跡記念碑(設立年、白虎隊士名、住所、地権者)を左記にまとめて示す。

平成二十七年九月 篠田儀三郎生家跡…米代一四一三〇

地権者…秋山ユアビス建設(株)

平成二十七年九月 飯沼貞吉生家跡…西栄町一八二二

地権者…(有)きくや生花店

平成二十八年九月 井深茂太郎生家跡…城前一二二東邦寮

地権者…東邦銀行(株)

平成二十八年九月 津川喜代美生家跡…米代一三二

地権者…福島県立若松商業高等学校

平成二十九年九月 石山虎之助生家跡…西栄町四一六一

地権者…福島県立葵高等学校

平成二十九年九月 安達藤三郎生家跡…山鹿町三一二七

地権者…竹田綜合病院

平成二十九年九月 西川勝太郎生家跡…城前一七

地権者…会津若松市立第二中学校

四 白虎隊戦闘の地案内板

白虎隊士が自刃したのは飯盛山であることは殆どの人を知っている。



図8 飯沼貞吉が描かせた白虎隊奮戦の図。左手が白虎隊、立って指揮しているのは篠田儀三郎。右手は新政府軍。絵師は梅里。原寸は41cmx107cm。

では、白虎隊はどこでどのように戦ったのか?

白虎隊が出陣命令を受けたのは慶応四年八月二十二日。隊長日向内記は隊士三十七名を率いて藩主護衛役として滝沢本陣に向かった。ここで、敵が十六橋を突破して戸の口原に侵攻中との連絡を受け、白虎隊は応戦のため前線へ進軍。一夜明けた二十三日早朝に戦闘が始まるのだが、予期せぬことに隊長が戻って来ない。混乱の中で、篠田儀三郎が隊長代行を買って出て敵の最前線部隊と対峙した。貞吉

は晩年にこれらの史実を手記するとともに、出入りの絵師に白虎隊奮戦の図を描かせた。(図8)

戸ノ口原古戦場跡に「白虎隊奮戦の地」の巨大モニメントがある。明治三十三年に設置されたものであるが、会津史跡に詳しい石田明夫氏の調査によれば、ここは白虎隊が戦闘した場所ではないという。調査の手がかりとなったのは上記の貞吉が残した手記と「白虎隊奮戦の図」であった。

石田氏は戸の口原周辺を徹底的に調査した結果、新たな発見をした。



図9 白虎隊戦闘の地除幕の記念写真
(強清水駐車場前)

白虎隊奮戦の図は、右手に白虎隊と対峙する西軍が描かれ、左手に石地藏と民家と山並みが描かれている。左右の図はそれぞれ別の場所を示しており、どちらも戸ノ口原近辺に実在するという。そして、戦闘の地は戸ノ口原古戦場跡から西に約一キロメートル入っ

たところで、証拠となる塹壕が残っている。また、石地藏は赤井の小坂に実在したという。

そこで、平成二十六年九月磐梯山を真近に臨む会津若松市河東町にある戸ノ口原に「白虎隊戦闘の地説明板」を設置し除幕した。建てられた説明板は全部で四か所、四基。除幕式は会津の名水の湧く強清水の駐車場脇。案内板はステンレス製で高さ二メートル幅一・六五センチメートルの横型看板である。

会津若松市長室井照平氏、会津若松市議会議員目黒章三郎氏、衆議院議員菅家一郎氏、同じく小熊慎司氏による除幕が行われ、式には白虎隊の会会員、会津藩士の子孫の方々など遠くは京都や神奈川から、その他報道関係者など五〇名ほどの参列があった。続いて会津一刀流剣詩舞道皆川盤陽氏より白虎隊詩吟を奉納して頂いた。(図9)

五 大窪山墓地案内板

善龍寺の奥の大窪山には約四千の会津藩士の墓があるという。田中、西郷、横山、井深家、などは勿論のこと、山川家、飯沼家の墓もここにある。会津ゆかりの人がご先祖を訪ねるとしたら、大窪山は欠かせない。

ところが、大窪山は国有地の為、案内板等の設置はおろか墓地工事等が厳禁されている。子孫が山に入るのは至難



図10 大窪山墓地案内図除幕記念写真

で、会津でもこの地を案内できるのは数人しかいないのではないか。何とか現地の人の手を煩わせないで訪問できるようにしたい。そのためには墓地案内図を造るのが良い。何度か現地を訪問するうちに、大窪山山麓に位置する善龍寺境内に案内図を設置することを思い付いた。善龍寺はなよたけの碑で有名だから、訪問客はタクシーで善龍寺に行き、案内図を見て大窪

山墓地に行くことができる。

このようにして、平成二十五年九月に大窪山墓地案内図を設置し除幕した。

場所は本堂前、案内図の設計は石田明夫氏、なよたけの会と護寺会にも同席していただいた。(図10)

六 白虎隊の辿った道彫刻石

白虎隊の悲劇は慶応四年(一八六八)八月二十二(二十三日(新暦十月九日)の僅か一日の出来事であった。白虎士中二番隊三十七名は二十二日の昼ごろに鶴ヶ城を出立し、藩主護衛隊として滝沢本陣に出陣。ここで十六橋に迫る敵軍を阻止するべく援軍要請を受け、戸ノ口原方面へ進軍し、孤土山で一夜を露営。

新式銃で武装した敵約三千に対して、味方七百、内、西洋式軍事訓練を受けた正規軍は白虎隊のみという超ハンデキャップがあることも知らされぬ状況で、二十三日早朝、果敢に敵軍と交戦し撤退。約半数が飯盛山に至って、全員自刃した。唯一生き残った飯沼貞吉は後日、自刃理由は「武士の自分を明らかにするため」、自刃時刻は午前十時と書き残した。残る約半数の白虎隊士は帰城し、この後約一か月に及ぶ籠城戦を戦った。

飯盛山を訪れる観光客は多く、十九士の墓に線香は絶えることがない。だが、白虎隊士のこの時の行動は、「落城」と誤認し、殿のあとを追った」という悲劇物語として一蹴されてしまう。筆者は、白虎隊士の行動を少しでもよく理解して欲しいとかねがね考えてきました。そのための具体的な方法としては、説明板や案内図などが考えられるが、美観の問題もあり中々進まなかった。

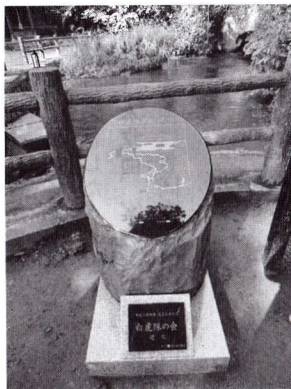


図11 白虎隊が辿った道彫刻石



図12 白虎隊が辿った道案内図

「彫刻石」のアイデアは白虎隊の会津支部から出された。黒みかげ石に直接「白虎隊が辿った道」の図を彫りこむことで、戸の口洞門出口一帯の景観とマッチし、現地関係者の賛同を得ることができた。

「白虎隊が辿った道」の史実確認は石田明夫氏にお願いした。磐梯山の形状、猪苗代湖

この彫刻石には、戊辰戦争に出陣した白虎隊が戸ノ口原から飯盛山で自刃するまでの道のりが記してあり白虎隊の行動が一目瞭然で分かる。(図11・12)

建立後、飯盛山を訪れる方が熱心に彫刻石を見て、出陣路・退却路が示してある部分を指でなぞり白虎隊を想い描きながら会話をしている姿が多くみられるようになった。飯盛山へお越しの際は是非ともご覧下さい。

七 白虎隊自刃の地説明板

飯盛山を訪れ、正面に並んでいる白虎隊十九士の墓をお参りする人の殆どは、白虎隊悲劇物語を想起すると思われる。次に、正面右手の小道を進むと、「飯沼貞吉の墓」が現れ蘇生者が一人あったことを知る。

更に奥に進むと階段があつて、これを下ると「白虎隊殉難士各霊塔」がある白虎隊自刃の地に出る。そして、鶴ヶ城を望む「少年隊士像」を見て、炎上する城下を見て自刃したという通説に納得し、鶴ヶ城がどこかを確かめて帰路に就く。

籠城戦が自刃後一か月も続いたことや、白虎隊の自刃理由には特に関心を示さない。

広辞苑で白虎隊を引くと「十九人の少年は城陥ると即断して城外の飯盛山で自刃した」となっている。他の国語辞

書も同様で、「落城誤認説」は百年前から定説になっていた。

しかし、平成二十(二〇〇八)年に発見された飯沼貞吉が残した自筆文書「白虎隊顛末記」には、自刃理由は「武士の本分を明らかにするため」と明記されていた。

「落城誤認説」と「武士の本分説」とでは雲泥の差がある。一口で言えば、前者は「子供たちの早とちり」、後者は「ならぬことはならぬ」である。

そこで、「白虎隊の会」では、本会の最初の事業として飯盛山白虎隊自刃の地に説明板を設置することとし、二年前から準備を進めてきた。実行に当たって、まずは地元関係者の了解を得ることが必須である。会津支部では会津弔霊義会と墓地管理委員会に、本件の企画趣旨、説明文案、裏づけ資料などを用意して協力をお願いした。

平成二十三(二〇一一)年四月六日に弔霊義会から本会宛に申入書が提出され、八項目の検討事項が示された。佐藤一男氏・石田明夫氏に調整をお願いし、八月初旬に合意が成立した。一方、構造物の設計については、



図13 白虎隊自刃の地説明板

宛に申入書が提出され、八項目の検討事項が示された。佐藤一男氏・石田明夫氏に調整をお願いし、八月初旬に合意が成立した。一方、構造物の設計については、



図14 白虎隊自刃の地説明板除幕記念写真

天狗堂にお願いし、柱ステンレス一〇センチメートル角・縦七〇・横一〇〇・高さ一八〇センチメートルの構造が決定した。(図13)

除幕式は秋の会津祭りの初日、九月二十二日。主なご来賓は市長、弔霊義会理事長、墓地管理委員長、市議会議員、観光協会課長、商店会長、町内会長など。(図14)

前日からの大型台風の影響で当日は交通機関が麻痺。郡山駅でタクシー乗り場に二時間行列し二万円かけて現地に着したのは予定より三時間遅れ。おまけに、この頃から

土砂降りの雨となり、開催さえ危ぶまれた。

正に白虎隊にふさわしい波乱の幕開けである。しかし、開始五分前ぐらいから雨も小降りになり、約五十名の参列者を得て、除幕式は予定通り遂行された。

この日、私(飯沼)は白虎隊の子孫として、あの日(白虎隊自刃の日)のことを思い浮かべていた。戦いに敗れ、

白虎隊の「義」後世に



白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊士 飯沼貞吉、山川健次郎子孫ら会設立 事業継続中

- ・会津飯盛山 白虎隊自刃の地
説明板設置 (2011.9)
- ・会津飯盛山 白虎隊が辿った道
彫刻石設置 (2012.9)
- ・下関市功山寺 萬骨塔
山川健次郎霊石安置 (2011.10)
- ・長崎市ししとき川
日下義雄顕彰板 (2013.1)
- ・恩愛の碑 (白虎隊士飯沼貞吉・長州藩士榑崎頼)
設置 (山口県美祢市 2016.10)
- ・「白虎隊士飯沼貞吉の回生」
出版 (2012.12)

会員
募集中

年会費3,000円

郵便振込先 00100-1-616556 白虎隊の会

會 白虎隊の会

<http://byakkotai.club>

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14

事務局／飯沼方 電話03-3429-6652 FAX03-3429-6654

会津支部

連絡先：090-3750-2234
森川まで

- ・会津若松市善龍寺
大窪山墓地案内板設置 (2013.9)
- ・会津若松市河東町強清水
白虎隊戦闘の地説明板設置 (2014.9)
- ・会津若松市内に白虎隊士生家跡碑設置
篠田儀三郎・飯沼貞吉 (2015.9)
津川喜代美・井深茂太郎 (2016.9)
石山虎之助・西川勝太郎・安達藤三郎 (2017.9)
白虎隊士生家案内図設置 (2017.9)
- ・戊辰150年会津藩子孫隊として出陣
(2018.9)
- ・喜多方市塩川町に
飯沼貞吉ゆかりの地碑設置 (2019.9)

むすび

白虎隊の会を立ち上げて十年。この間に取り組んだ白虎隊記念碑設置事業のうち、会津地方関係の実績について紹介した。当会では、この他に下関市功山寺万骨塔に「山川健次郎霊石」を安置 (平成二十三年十月)、長崎市しとき川に「目下義雄顕彰板」を設置 (平成二十五年一月)、山口県美祢市小杉に「長州藩士榑崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉の恩愛の碑」を設置 (平成二十八年十月) した。今後も活動を継続しますのでご協力をお願い致します。

仲間を失い、怪我人を抱えながらこの飯盛山に辿りついた。貞吉はこの時の状況を「南、若松城を望めば、炎焔は天に漲り、砲声は地に轟く。北、滝沢街道を看れば、敵兵の行進する其の数幾ばくなるかを知らず」と記した。

そして、帰城が玉砕かを巡って侃々諤々の議論を戦わした。結論を下したのは隊長代行の篠田儀三郎だった。「自刃して武士の自分を明らかにする」。そして、貞吉は「議論ここに始めて定まり、おもむろに用意を為し、一同列座し鶴ヶ城に向い遙拝訣別の意を表し、従容として皆自刃したりき」と結んだ。

自刃は武士のデモンストレーションである。皇国にひたすら仕えながら、朝敵とされ、殺戮され、壊滅された。この理不尽に対して、彼らは抗議し、一糸乱れぬ自刃を以って、自分達の「義」を表現したのだ。「城が落ちたと思ひ、殿の後を追った」などという幼稚な解釈が百年以上続いた。これ以上彼らを侮辱し続けてはならない。



(本会会員)